

推進項目	計画(PLAN)		行動(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)
	令和2年度事業(予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	事務局(スポ課の考え方)	令和3年度事業実施に向けて
(1) 誰もが楽しめる スポーツ機 会の創出	○市民体育祭実行委員会負担金(1,750千円) 前年比:50千円 減	・今年48回目を数える歴史のある大会。地区内の人口減少により、地区単位での参加が困難となってきた。 ・市民が一堂に会して交流を深める市最大のイベントである。 ・R2年度に向けて、できる限り、市民・地域が参加しやすいよう再調整を行い、開催時間帯、内容等を精査していく。	・新型コロナウイルスの影響により中止	・市民体育祭を中止判断をしたことに伴い、代替大会の検討を行った。体育振興会各理事及びスポーツ推進委員へ意見聴取をしたが、開催について反対意見が多く実施に至らず。 ・昨年9月に各コミュニティ振興会(会長・事務局等)を対象に「市民体育祭の開催及び運営等に関する意識調査」を実施した(回答率:100%)。 ・内容を見直しながら継続していくとの意見が大勢で、特に小学生の減少に伴う種目の廃止・見直し(レクリエーション的な種目の導入)、大人の競技も年齢制限をなくしたり男女混合にしたりするなど制限を緩和し参加しやすいよう見直ししていくべきとの意見があり、それらの意見を反映した形で実施内容を検討していく。	・各コミュニティ振興会(会長・事務局等)を対象にした意識調査の意見を参照し、またコロナ対策として、種目内容の見直しや実施人数の縮小を図った案を体育振興会やスポーツ推進委員会の各種会議で提案し、大会開催に向けて協議を進めていく。
	○スポーツ推進委員会負担金 (2,168千円) 前年比:65千円 減 ※報酬を除いた予算額 ▽酒田市体育振興会 (予算なし)	・「スポーツ推進委員」は、実技指導だけではなく、地域住民と行政とのコーディネーター機能を担っており、地域スポーツにおいて欠かせない存在となっている。 ・資質向上(指導者)と活躍する人材の育成 ・地域によるスポーツ活動(ニュースポーツ)の普及 ・ニュースポーツ等の用具の更新	・改選により、前期より3名推薦者が増えた。 ※83名のうち新規スポーツ推進委員21名 ・ニュースポーツ大会を実施(10/4) ・会員研修会を実施し、ニュースポーツのルール確認及びニュースポーツの体験(フロッカー・モルック)を行った。(11/28) ・新型コロナウイルスの影響による各地区の運動不足解消事業(スポーツ教室開催)に係る備品購入助成(1地区50,000円) ※14地区助成予定	・新規スポーツ推進委員をメインの対象とした初任者研修会を実施予定(2/20) ・感染症予防対策を徹底した上で、市民を対象にニュースポーツ大会を実施した。コロナ禍の運動不足解消のきっかけづくりになったと考える。 ・地区に対するフロッカー等の備品購入費助成に関しても、コロナ禍の運動不足解消のきっかけづくりになったと考える。	・地区・地域のスポーツ振興及びコーディネーターとしての役割を果たすべく、各種講習会への参加を支援していく。 ・競技スポーツの指導者ではなく、『特に生涯スポーツを振興する中心的役割を担う者』としての自覚・責任を持ち、各事業への積極的な参加によりスキルアップできるよう支援していく。 ・スポーツ推進委員会の活動状況を広く市民へ周知していくよう、会報発行以外にも市ホームページ等で広報をしていく。
	○総合型地域スポーツクラブへの側面的支援 (予算なし)	・総合型地域スポーツクラブの公益的な活動について適切に評価し、必要な支援を行う。 ・現在9つのクラブが活動 ・R1年度に「酒田市総合型地域スポーツクラブ情報交換会」を設立。 ※会長:丸山氏(ひらた目ん玉スポーツクラブ会長) ・施設使用料に対する減免のあり方を検討	・令和2年度は1回のみでの会議となったが、市体育施設使用料減免基準の改定について協議を行った。 ・庄内地区広域スポーツセンター主催研修会開催予定(3/6) 内容:部活動改革におけるクラブのあり方	・総合型地域スポーツクラブの定期活動については、これまで施設使用料の全額を免除してきたが、今般の減免指針の改定により、半額を減免する取り扱いとなった(※但し、当分の間は、従前どおり全額を免除する取り扱いとする経過措置期間を設定している)。	・令和元年度に設立した「情報交換会」を継続して開催し、部活動改革等への取組み、各クラブが抱えている課題を解決できるよう内容の充実を図っていく。 ・施設使用料の減免指針が改定になり、従前どおり全額を免除する取り扱いとする経過措置期間を設定されているが、減免措置がなくなった場合でも持続可能なクラブ経営が実現できるよう継続してを協議を図っていく。 ・庄内地区広域スポーツセンター主催のクラブ運営に係る研修会への参加呼び掛けを積極的に行う。
(2) 子どもの スポーツ活 動の推進	○スポーツ少年団活動事業 (3,262千円) 前年比:101千円 減 団員数 令和2年度 1,387人 (内小学生 1,368人) 加入率(小学生) 令和2年度 32%	R1 団員数:1517人、加入率:33.7% R2 団員数:1387人、加入率:32% ・スポーツ活動を通して、子どもたちの健全な心身を育成するため、各種大会、他地域との交流活動や体力測定などの各種活動を行う。 ・指導者・育成母集団の育成と団活動の円滑な運営を推進するため、各種研修会の開催や派遣等を行う。 ・運動適性テスト(体力測定)の実施率を上げるための方策を検討。	・本部大会(野球・サッカー・バスケ・バレー・卓球)の5競技を実施(剣道は中止)。 ・酒田・遊佐交流大会の中止。 ・本部主催の指導者研修会開催予定(2/27) 内容:やる気を引き出す魔法の言葉 ~ペップトークで体罰暴言ゼロ宣言~、運動適性テストⅡの改定内容の説明等	・コロナ禍でも子ども達の活動発表の場を設けるために、各専門部よりコロナ対策を徹底して本部大会を開催していただいた。 ・新型コロナウイルスの感染状況を鑑みたスポ少活動の休止等の連絡について、スポ少本部役員や各単位団代表者への確に情報提供を行うことができた。 ・加入率については、少子化だけが団員数減少の要因ではないと考えるので、加入率向上に向けた手立てを検討していくことが必要。	・スポ少加入率の向上対策をスポ少本部として取り組んでいく(情報共有、募集チラシの作成等)。 ・新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、安全で安心なスポ少活動及び大会運営ができるよう支援していく(各専門部への活動支援)。 ・引き続き、新指導者制度への円滑な移行を進めていく(各単位団への補助)。 ・単なる勝利至上主義を目指す活動とならないよう、スポーツ少年団の本来の活動について、指導者等へ周知を図っていく。
	○B&G平田海洋クラブ活動負担金 ※スポーツ振興総務管理事業 ※補助金→負担金 (56千円) 前年比:2千円 減	R1クラブ員:193人(45家族、29個人) R2クラブ員:192人(43家族、23個人) ・カヌーやヨットなどの海洋性レクリエーション活動を通じて、水辺の安全教育の普及と体力の向上などに取り組む。 ・クラブ員の確保、イベント等への参加者の確保が課題となっている。 ・会員募集、事業開催等の募集方法の検討。	・各小学校に、クラブ会員の募集チラシを配布する。 ・事業については、海洋クラブの会員のみに周知するが、HP等でも周知する。 ・初心者向けのカヌー教室等も、HP、広報等で周知する。	・補助金→負担金となって、行政が一層かかわりを持ったことは評価できる。海洋性スポーツ(カヤック・カヌー)を広めるために、広報等だけの周知ではなく、地域の回覧板などによる事業の周知方法を改善する必要がある。 ・コロナ禍の中、感染予防を徹底し、海洋センターと連携を図りながらの初心者カヌー教室やカヌーツーリングなどの事業実施をとおして、海洋性レクリエーションと水の安全教育の普及と拡大を行うことができた。	・クラブ員募集の周知方法の検討を行い、クラブ員増の取り組みを行っていく。 ・新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、活動できるよう支援していく。
	▽「もっと遊べ酒田の子ども」運動テキストの活用 ▽酒田市体育協会 スポーツ教室の実施 (予算なし)	・保育園等との連携による基本動作を体験させる運動遊びの場の充実 ・スポ少→部活動(中学校)へのきっかけづくり。	・子ども(青少年)の分野におけるスポーツの振興はスポ少事業のみ。 ・体育協会で、小学生を対象にした事業など、底辺拡大に向けた取り組み(ちびっこスポーツクラブ)を実施している。	・基本動作を遊びの中で身につけられるようなプログラムの継続が必要。 ・体育協会主催の「ちびっこスポーツクラブ」の継続実施。	・「もっと遊べ酒田の子ども」運動テキストの活用方法を探る。

推進項目	計画(PPLAN)		行動(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)
	令和2年度事業(予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	事務局(スポ課の考え方)	令和3年度事業実施に向けて
(3) 18歳からのライフステージに応じたスポーツ活動の推進	▽子育て世代、働き世代、高齢者のスポーツ活動の充実 ▽酒田市体育協会 スポーツ教室の実施(体育協会事業)	・スポーツに取り組む習慣づくり ・意識付け、動機付け、会場の確保 ・スポーツ推進委員が各地区で実施している体力測定会をきっかけにスポーツ活動へ取り組んでもらう。 ・スポーツ推進委員を中心とした地域スポーツの充実。 ・備品等の整備	・平成28年度から調査を実施している「スポーツ行事への参加状況調べ(各地区体育振興会より報告)」 H28・・・36,184人 H29・・・41,714人 H30・・・47,051人 R01・・・41,057人	・高齢者のスポーツ実施率は高まっている傾向にあるが、子育て世代や働き世代にどのようにアプローチしていくかが課題である。 ・コロナ禍の自粛期間、市民体育祭等の多くのスポーツイベントが中止になったことから、スポーツ行事への参加状況は低くなったと考える。	・子育て世代や働き世代におけるスポーツの実施率の向上施策を引き続き検討していく。 ・その一つとして、総合型地域スポーツクラブの活動が充実するよう、情報共有を図る「情報交換会」を定期的に開催していく。 ・地域でスポーツイベントやスポーツ教室等を安全安心に実施していけるよう、各競技団体等のガイダンスを参考にしてコロナ対策等の助言をしていく。
(4) 障がい者のスポーツ活動の推進	▽スポーツ推進委員会山形県大会(スポ推事業)	・障がい者スポーツへの理解を深める取り組みをスポーツ推進委員会で実施。	・新型コロナウイルスの影響により中止	・来年度のスポーツ推進委員会山形県大会が酒田市での開催となるため、障がい者スポーツへの理解を深める取組みやニュースポーツ(モルック)の取組みを実施提案していく。	・スポーツ推進委員会山形県大会は酒田市で開催される予定である。プログラムの一つとして、義足アスリートの講演及び義足体験会を実施予定。

【数値目標】 ※毎年、アンケート調査を実施

スポーツ実施率

成人の週1回以上のスポーツ実施率 ⇒ 60% (R01: 48.8%)
(H29: 31.0%)

同 週3回以上のスポーツ実施率 ⇒ 30% (R01: 22.7%)
(H29: 14.4%)

子ども(小学生)のスポーツ実施率 ⇒ 85% (R01: 51.4%)
(H30: 78.3%)

※1日60分、週420分以上

スポーツや運動が好きである子ども(小学生) ⇒ 85% (R01: 67.1%)
(H30: 77.7%)

スポーツや運動が好きである子ども(中学生) ⇒ 75% (R01: 57.7%)
(H30: 66.3%)